

## カメルーン：「カメルーン英語圏における SCNC 構成員の家族に対する最近の迫害事例」に関する情報

カメルーンの「カメルーン英語圏における SCNC 構成員の家族に対する最近の迫害事例」に関する調査依頼に対し、難民研究フォーラムが規定の時間的制約の中で調査したところ、関連しうる情報として以下の情報が見つかりました。

1. 近時の SCNC の状況について.....	1
2. SCNC 構成員の家族に対する取扱い.....	3
3. 英語圏分離主義運動との関係を疑われる者の当局による取扱い.....	4
参照：.....	6
略称：.....	6

### 1. 近時の SCNC の状況について

#### ア 英国内務省「[国別基本情報ノート カメルーン、1.0 版](#)」(2020 年 12 月)

15.2.2 ベルテルスマン財団は 2020 年のカメルーン国別報告で次の通り述べた。  
ertelsmann Stiftung in their 2020 Country Report for Cameroon stated:  
「原則として、憲法は結社や集会の自由を保証しているが、実際にはこれらの権利はかなり制限されている。一般的に言えば、市民は団体や政党を作ることができる。現在、100 以上の登録政党と多数の市民社会団体がある。しかし、2017 年 1 月、政府は 2014 年の反テロ法案に基づく権限を行使して、2 つのアンゴルフォン権利擁護団体である南カメルーン評議会〔Southern Cameroon National Council (SCNC)〕とカメルーン・アングロフォン市民社会連合〔Cameroon Anglophone Civil Society Consortium (CACSC)〕を禁止した。  
...

#### イ 英国内務省「[国別政策情報ノート カメルーン:北西州/南西州の危機、2.0 版](#)」(2020 年 12 月)

5.63 BAMF (ドイツ連邦移民難民事務所) は 2019 年 9 月 2 日のブリーフィング・ノートで次の通り報告した。  
「首都ヤウンデの軍事法廷は、2019 年 8 月 20 日、反対派のメンバー 10 人に終身刑を宣告した。その中には、分離主義者グループ SCNC のリーダーであるシンク・アユク・タベ〔Sisiku Ayuk Tabe〕も含まれていた。複数のメディアの報道によると、裁判所は彼らを反乱及びテロリズム、分離主義追求の罪で有罪とした。これらの訴追は、2018 年 10 月に物議を醸したポール・ビヤ大統領の再選に対して野党が組織した抗議活動が動機となっていた。」

ウ **ACCORD**「[カメルーンに関するクエリー回答 \[a-11377\]:SCNC 構成員の SCNC との直接的なつながりのない家族に対する当局や非正規組織、個人による取扱い \(逮捕・脅迫など\)](#)」 [ecoi.net](#) (2020年9月24日)

2019年6月、アフリカ人権民主化センター (CHRDA) とラウル・ワレンバーク人権センターは、南カメルーン国民評議会 (SCNC) のほかに、南カメルーン・アングロフォン機構 (SCAPO)、南カメルーン青年同盟 (SCYL)、南カメルーン独立回復運動 (MORISC)、南カメルーン・アンバゾニア・コンソーシアム統一戦線 (SCACUF) などのグループが重要な民間組織として挙げられると指摘した。SCACUF は、アンバゾニアの暫定政府であると自称している。(CHRDA、2019年6月3日、34頁)

ベルテルスマン財団によると、カメルーンでは2017年1月、2014年の反テロリズム法に基づき、南カメルーン国民評議会 (SCNC) などが禁止された。(ベルテルスマン財団、2020年4月29日、11頁)

独立系の人道ニュースサービスであるニュー・ヒューマニタリアン (TNH) は、2020年7月に掲載した記事の中で、英語圏のアンバゾニア暫定政府 (IG) が2つに分かれて対立していることに言及している。1つは、テロと分離独立の罪に問われ、無期懲役に直面しているシシク・ジュリウス・アユク・タベ [Sisiku Julius Ayuk Tabe] 氏が率いるものである。もう一つの暫定政府は、サミュエル・イコメ・サコ [Samuel Ikome Sako] が率いるものである。両暫定政府は、他の多くの組織のアンブレラ組織である。運動の分裂は、シシクがナイジェリアで拘束され、2018年1月にカメルーンに送還された後に起こった。(TNH、2020年7月8日)

ワシントン D.C. に本部を置く非政府組織のフリーダムハウスは、2020年3月の人権報告書 (2019年報告期間) の中で、シシク・アユク・タベが SCNC のリーダーであると記している。(フリーダムハウス、2020年3月4日、セクション E2)

...

エ **HRW**「[英語圏での殺人と破壊-政府と分離派が民間人を虐待](#)」 (2018年7月19日)

2017年1月17日、政府はインターネットへの接続を切断し南カメルーン国民会議 (SCNC) とカメルーン英語圏市民社会連合 (CACSC) <sup>1</sup>、2つのグループの活動を禁止した。[22] 同日、カメルーン英語圏市民社会連合 (CACSC) を率いる2人の著名なカメルーン英語圏の市民活動家であるフェリックス・アグボア・ンコグホ [Felix Agbor Nkongho] 氏と フォント・ネバ博士 [ Dr Fontem Neba] は逮捕されヤウンデに移送された。[23]

<sup>1</sup> 原文 the Consortium 記事前文参照したところ the Cameroon Anglophone Civil Society Consortium とあったことから以下 the Consortium はカメルーン英語圏市民社会連合 CACSC と訳

2日後、分離主義の指導者であるマンチョ・ビビキー [Mancho Bibixy] 氏もまた他の6人の活動家と共に逮捕された。[24]

一連の逮捕の影響を受け、一部のカメルーン英語圏市民社会連合(CACSC)とSCNCの指導者達はナイジェリアに避難し、そこで南カメルーンアンバゾニア統一戦線連合(SCACUF)を結成した。SCACUFの中には、カメルーン政府に対する武装闘争を提唱し準備するグループや個人が存在した。

## 2. SCNC 構成員の家族に対する取扱い

### ア [ACCORD「カメルーンに関するクエリー回答 \[a-11377\]:SCNC 構成員の SCNC との直接的なつながりのない家族に対する当局や非正規組織、個人による取扱い \(逮捕・脅迫など\)」](#) [ecoi.net](#) (2020年9月24日)

ジャッキー・ファーンリー [Jackie Fearnley] は、英国でカメルーン庇護希望者の支援活動をしているが、2020年9月23日付けのEメール報告で、カメルーンの北西州および南西州に住むすべての者の危険が非常に高いことを述べている。多くの観測筋が、ジェノサイド(「ジェノサイド・シナリオ」)の傾向があると見ている。民間人が軍によって恣意的に標的にされることが多く、この2週間でその状況は悪化している。

ファーンリー氏によると、SCNCの構成員として知られている者の家族は、追加的な危険に晒されているものの、その危険を評価することは難しいという。(その危険は、)軍隊の突然の行動(「軍隊の突然の襲来」)というよりは、法的手続きによるためである。

出国したある家族の構成員を当局が捜索する場合、指名手配者の逮捕を呼びかける(「誘いかける」)ために、両親の名前を記した逮捕通知が地方に掲示される可能性が高い。あるいは、逃亡した後に令状が発行される場合には、その者の最終の住所や職場に持っていくことになる。これは、親族が身を隠すべき合図になるであろう。

また、別のよくある状況として、特に若い男性に多いのが、呼び止められて捜索を受けることである。彼らの携帯電話に紛争状況について言及したり記述したりしているものがないか、不審な連絡先やテキストメッセージがないかなどが調べられる。家族の構成員がSCNCに所属している場合、そのようなものが携帯電話に保存されている可能性が高いと考えられる。罪になるような証拠を見つけられると、拘留されたり、それ以上のことをされる可能性がある。(ファーンリー、2020年9月23日)

名前の使用許可を得ていないカメルーン英語圏の状況を監視しているある専門家は、2020年9月のEメールでの報告で、カメルーンの治安部隊が英語圏の住民に対して数々の深刻な人権侵害を行っていると述べている。ここで重要なことは、カメルーンの英語圏の人々、特に英語圏地域にいる人々に対する脅威は非常に高いということである。SCNCと家族のつながりがあれば、他の理由にかかわ

らず、現在の状況では間違いなくその者を重大な危険に晒すことになる。また、この紛争では情報が武器として使われているため、分離主義者からの危険を考慮することも重要である。(専門家、2020年9月29日)

...

個人や組織の非国家主体による SCNC 構成員の家族の取扱いについては、特に情報が得られなかった。

...

### 3. 英語圏分離主義運動との関係を疑われる者の当局による取扱い

#### ア [ACCORD「カメルーンに関するクエリー回答 \[a-11377\]:SCNC 構成員の SCNC との直接的なつながりのない家族に対する当局や非正規組織、個人による取扱い \(逮捕・脅迫など\)」](#) [ecoi.net](#) (2020年9月24日)

以下は、英語圏の人々の当局による取扱いについての情報である。

国連の保護責任 (R2P) の概念に基づいて設立された組織である保護責任グローバルセンター (GCR2P) は、2020年9月の報告書の中で、治安部隊が超法規的な殺害を行ったり、英語圏の地域を焼き払ったりしている証拠があると言及している。分離主義者との関係を疑われた人々は、拷問や不正な取扱いを受けた。

2020年8月の分離主義者による攻撃に対応して、政府軍は分離主義者と疑われる数人を拷問して殺害し、数百人の民間人を恣意的に逮捕した。

文化的アイデンティティに基づいて個人を標的にすることは、英語圏とフランス語圏の両方の民間人にとって脅威となる。武装した分離主義者や治安部隊による民間人への攻撃が続けば、戦争犯罪や人道に対する罪になります。(GCR2P、2020年9月15日、3・4頁)

国際人権団体のヒューマン・ライツ・ウォッチ (HRW) は、2020年1月(報告期間2019年)の年次人権報告書の中で、カメルーンの治安部隊が、分離主義者による攻撃の高まりを受けて、北西部や南西部の地方や町で多くの人々を殺害し、数百の家屋などを焼き払い、拘留中の分離主義容疑者を拷問していることに言及している。この年、ヤウンデの国防事務局 (SED) の刑務所では、武装分離主義者グループとの関係を疑われる者に対して、外部との接触のない拘禁や拷問が広く行われたという。(HRW、2020年1月14日)

米国国務省 (USDOS) の2020年6月の「テロに関する年次報告書」によると、英仏分離主義者であるとの疑いで逮捕された低レベルの拘留者 333 人が 2019年10月に釈放された。しかし、何百人もの人々が拘留されたままでした。政府は、北西部や南西部で分離独立を主張する人々をテロリストとみなし続けていた。(USDOS, June 24, 2020)

USDOS は2020年3月の「年次人権報告書 (報告期間2019年)」において、2018年と同様に、2019年も治安部隊が英仏分離主義者や政治的反対者の容疑者の失踪に関与したと考えられると記している。

メディアの報道や NGO の報告によると、英語圏の北西部や南西部では、政府関係者によるレイプや性的虐待の事例があったようです。USDOS は、Kumbo で女性がレイプされたケースを紹介しています。この女性は、兵士に夫の居場所を聞かれた後、殴られたと言っています。もう一人の女性と一緒に、分離主義者の居場所についても聞かれたという。(USDOS, 11 March 2020, Section 1b; 1c)

TNH は 2020 年 3 月に、2020 年 2 月 14 日に発生した事件について報告している。この事件では、Ngarbuh 村での攻撃により、13 人の子供と妊婦を含む少なくとも 21 人の民間人が殺害されたとの目撃者の証言が得られている。生存者によると、政府軍とフラニ族の民兵が犯行に及んだとのことである。政府はこの報道を「テロリストのプロパガンダ」と述べた。政府の説明によると、村の治安部隊と分離独立派の反乱軍との銃撃戦で燃料タンクが爆発し、女性と子供 4 人の計 5 人が死亡したという。目撃者や地元住民によると、この襲撃は、英語圏の北西部と南西部の分離独立を主張する反政府勢力を支持したとされるコミュニティが処罰されたために行われたという。(TNH、2020 年 3 月 3 日)

この事件の詳細については、HRW の記事をご覧ください。(HRW, 24 April 2020 参照)

フリーダムハウスは、2020 年 3 月（報告期間 2019 年）の人権状況に関する報告書の中で、アンゴロフォン・カメルーン人に対する差別が広まっていると記載している。アンゴロフォンの市民は、公務員としてより高い地位の仕事に就けないことが多い。(フリーダムハウス、2020 年 3 月 4 日、セクション F4)

...

参照：

ecoi.net

\_\_\_\_\_ . ACCORD 「Anfragebeantwortung zu Kamerun: Informationen zur Behandlung von Familienmitgliedern von Mitgliedern des Southern Cameroons National Council (SCNC), die selbst nicht in unmittelbarer Verbindung zum SCNC stehen, seitens der Behörden und nichtstaatlicher Gruppen oder Personen (Verhaftung, Bedrohung oder weitere Handlungen) [a-11377] [カメルーンに関するクエリー回答 [a-11377] : SCNC 構成員の SCNC との直接的なつながりのない家族に対する当局や非正規組織、個人による取扱い (逮捕・脅迫など)]」 (2020年9月24日)、  
online : <https://www.ecoi.net/en/document/2038071.html>

英国内務省 「Country Background Note, Cameroon, Version 1.0 [国別基本情報ノート カメルーン、1.0版]」 (2020年12月)、online :  
[https://assets.publishing.service.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment\\_data/file/948164/Cameroon\\_-\\_Background\\_-\\_CPIN\\_-\\_v1.0\\_final\\_Gov.uk.pdf](https://assets.publishing.service.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/948164/Cameroon_-_Background_-_CPIN_-_v1.0_final_Gov.uk.pdf)

\_\_\_\_\_ . 「North-West/South-West crisis, Version 2.0 [国別政策情報ノート カメルーン：北西州／南西州の危機、2.0版]」 (2020年12月)、online :  
[https://assets.publishing.service.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment\\_data/file/944073/Cameroon\\_-\\_North-West\\_South-West\\_crisis\\_-\\_CPIN\\_-\\_v2.0\\_.pdf](https://assets.publishing.service.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/944073/Cameroon_-_North-West_South-West_crisis_-_CPIN_-_v2.0_.pdf)

略称：

ACCORD

オーストリア出身国・庇護研究ドキュメンテーションセンター

HRW

ヒューマン・ライツ・ウォッチ